

明日の  
とりでを  
考える



ひ  
こ  
ば  
え

「藁」とは伐(き)った草木の根株から出た芽のことです。草木の根元から力強く萌え出る姿に、市民の皆さんと共に築いていく「明日のとりで」への思いを託しました。

目 次	
とりで未来創造プラン 2020	・P1～7
そもそも「総合計画」って何?	・P2
今後4年間の基本計画 どんな事業が	・P4
ESD って何?	・P8

発行/取手市 編集/広報広聴課  
〒302-8585茨城県取手市寺田5139  
TEL 0297-74-2141 内線1141 FAX 73-5995  
ホームページアドレス <https://www.city.toride.ibaraki.jp/>  
携帯端末用アドレス <https://www.city.toride.ibaraki.jp/mob/>  
電子メールアドレス [info@city.toride.ibaraki.jp](mailto:info@city.toride.ibaraki.jp)

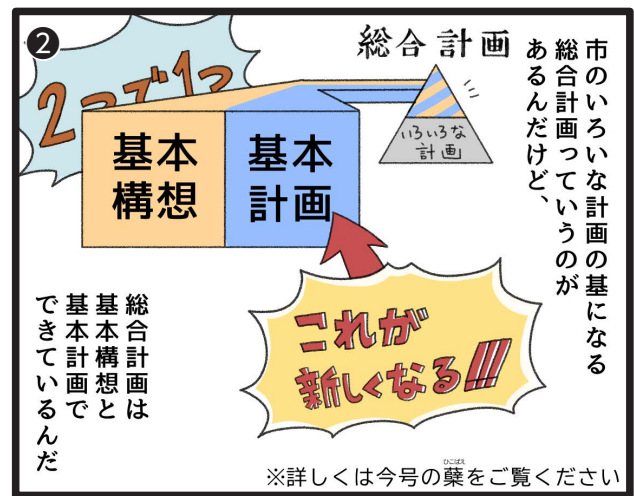


ホームページ

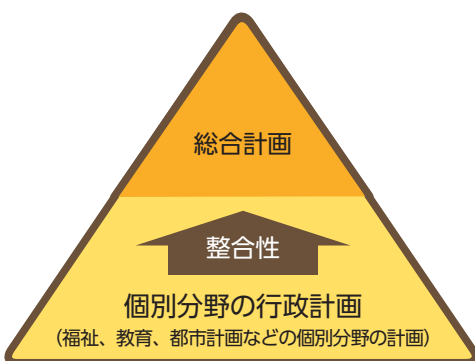
## とりで未来創造プラン 2020



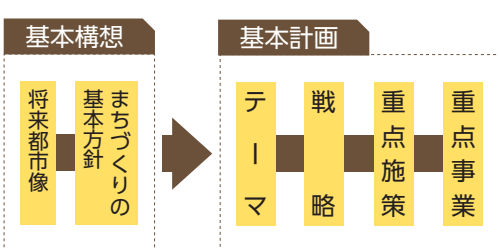
今号は市の次期基本計画「とりで未来創造プラン 2020」を紹介します。未来を担う子供たちの将来にも関わる重要な計画。子育て支援策や地域振興策も含まれ、元気な取手をつくります。写真は下高井地域振興協議会が催した永山保育所園児の麦踏み体験の様子です。



■ 総合計画の位置づけ



■ 総合計画の構成



——そもそも「総合計画」って何？

市のよりよい未来のために考えられた大きな計画

総合計画は、地方自治体の現状や課題を把握した上で、市が目指す将来都市像を定め、その実現に向けた取り組みを計画的に進めるために定めるものです(左図参照)。取手市の総合計画は、市が目指す将来都市像を定めた「基本構想」と、将来都市像の「ぬくもりとやすらぎに満ち、共に活力を育むまち」とりで」を実現するために、力を入れて行う施策や事業を

市は現在「第六次総合計画」に基づいてまちづくりを進めており、現行の基本計画である「とりで未来創造プラン2016」の計画期間(4年間)が今年度末で終了します。そこで、新たな基本計画である「とりで未来創造プラン2020」を策定しました。

定めた「基本計画」から構成されます。総合計画は、市の最上位の計画であるため、個別分野の行政計画を新たに定めたり、変更するとき、総合計画と整合させる必要があります。

※詳しくは今号の巻をご覧ください

## 4層構造の基本計画

新しい基本計画は4層構造になっていきます。重点的に実施すべき「テーマ」、テーマを実現していくための「戦略」、計画期間中に重点的に取り組む「重点施策」と、重点的に実施する「重点事業」の四つです。テーマ・戦略から導き出した17の重点施策をもとに、74の重点事業を定めました(下図参照)。主要な事業は4ページから紹介。

### 新たな視点が加わる

また今回の基本計画では、新たな考える視点として、①市制50周年と②SDGs(持続可能な開発目標)の推進を挙げています。

①では、令和2年に取手市が市制施行50周年を迎えることから、これを契機に、今後の新たな50年に向けた長期的なまちづくりの理念や方向性を行政と市民で共有します。

②では、市の行政計画に初めてSDGs(8ページ参照)の要素を盛り込みました。基本計画で定めた重点施策をSDGsのゴールに関連付け、ゴールの達成を目指します。

## とりで未来創造プラン 2020



### 市の総合計画の詳しい内容を知りたいときは…

市ホームページの「総合計画」のページでは、「第六次総合計画」策定までの経過や、「とりで未来創造プラン 2020」の紹介を掲載しています。



市ホームページ  
「総合計画」





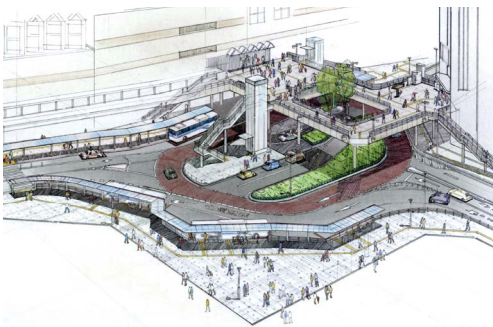
再開発ビルの整備イメージ

取手駅西口A街区(約0.7ha)では、準備組合(地権者)・事業協力者・市の三者が一体となり、市街地再開発事業を進めています。令和元年6月には「取手駅西口A街区地区市街地再開発準備組合」が設立され、市民サービス機能や都心居住機能などを一体とした魅力ある都市づくりを目指し、事業化に向けて計画づくりを進めています。

## 取手駅西口A街区市街地再開発事業

計画の中から、今後4年間に市が重点的に取り組む主な事業をご紹介します。この中には既に実施しているものや、予算などについて議決を経てから実施する事業があります。  
※重点施策名と、関連するSDGsのゴールも表示しています(8ページ参照)

# とりで未来創造プラン2020 今後4年間の基本計画 どんな重点事業が



土地区画整理事業による駅前交通広場の整備イメージ

再開発ビルは、高層住宅や公共施設、商業施設などの整備を予定しており、7年度の完成を目指しています。また、4年度末には、市施行(取手駅北土地区画整理事業)による西口交通広場のリニューアルを予定しており、交通混雑緩和や安全安心な歩行空間を創出します。

再開発ビルは、高層住宅や公共施設、商業施設などの整備を予定しており、7年度の完成を目指しています。



平成29年12月公募提案時事業協力者提案概要 イメージ図  
(南方角から見たイメージ)

計画テーマは「新たな取手の『求心力』を担う活力創造拠点づくり」です。多くの人が集い、交流できる大規模集客施設の整備を目指します。

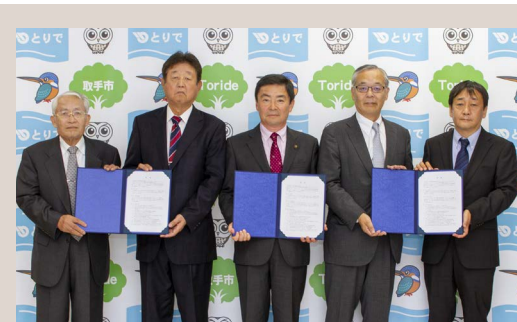
## 桑原地区活力創造拠点整備推進事業

桑原地区では、準備組合(地権者)・事業協力者(イオンモール(株))・イオンタウン(株)共同事業体)・市の三者が協力し、土地区画整理事業によるまちづくりの準備作業を進めています。

令和元年6月には、「桑原地区土地区画整理準備組合」が設立され、事業スケジュールなどが決まりました。今後は、都市計画の決定と組合設立に向けた取り組みを進め、7年度の開業を目指します。

## 準備組合・事業協力者・市が覚書

令和元年9月10日、桑原地区で目指す大規模集客施設の整備に向けた協力体制を整えるため、準備組合、商業展開を考えている事業協力者、市の三者で覚書を締結しました。土地区画整理事業の実現に向けた取り組みについて、相互がしっかりと協力した中で事業を推進していくことを確認しました。



左から福田副理事長、菊地理事長、市長、イオンモール(株) 八木開発副本部長、イオンタウン(株) 福本開発本部長

重点施策：起業支援と企業誘致

創業支援事業



学生・市民がビジネスプランを発表

みんなのビジコン開催

2月22日、前田建設工業(株) ICI総合センター(寺田)でビジネスプランコンテストが催され、50組を超える応募から学生・市民各5組のファイナリストが出場。市民の方も審査員として参加しました。

起業支援型レンタルオフィス「Match・hako」設置と、創業セミナーの開催、社長塾の開催、フリーペーパー「Match・hako」の発行、市民参加型ビジネスプランコンテストの開催など、さまざまな支援を推進し、まち全体が起業家を応援し、起業を促進する仕組みをつくりまします。

企業誘致事業



企業の進出が続くゆめみ野地区

企業誘致に向け関係機関との連携を図るとともに、事業用地・手続・優遇制度の適用などの相談や情報提供を、1カ所に対応する窓口のワンストップ化など、誘致体制を強化します。  
これにより、安定した雇用を拡大・創出し、若年層やファミリー層をはじめとする市民が、取手市に住み、働ける環境整備を進めます。新たな起業や企業立地がしやすい環境や制度を整え、地域産業の活性化につなげます。

重点施策：市内企業支援と産業の活性化

買い物弱者支援事業



移動販売車の様子



高齢者などの買い物弱者支援事業として、市内の買い物物が困難な地域において、移動販売車により買物の場を提供する事業者に対し、事業に必要な人件費の一部を補助し、移動販売事業の安定的な運営を支援しています。  
移動販売車は、市内24カ所の販売地点で巡回販売を行っており、食品・日用品・生鮮食品などのおよそ400品目を取り扱っています。

重点施策：子育て世代支援策の展開

放課後子どもクラブ運営事業



放課後子どもクラブ

市内の全小学校に子どもクラブ室の設置や放課後児童支援員を配置し、放課後や長期休業中の児童の居場所づくりとして、さまざまな体験活動などを実施し、子どもの健全育成を図ります。  
放課後子どもクラブは、保護者の就労の有無に関わらず受け入れるため、利用児童は増加傾向にあります。令和元年度は1月までに2095人が登録しました。  
クラブ室については、ゆめみ野地区の人口増加に伴い、令和2年度に高井小学校の敷地内に子どもクラブ専用建物の新築を予定しています。  
今後も安全面の強化や放課後児童支援員の資質の向上を図り、活動内容の充実を目指します。



重点施策 : 学校教育の充実



大規模改修工事後の久賀小学校

公共施設等総合管理計画に基づき、学校施設の大規模改修工事を進め、児童生徒の安全で快適な教育環境を整えます。

平成29年度に校舎や体育館などの付属建築物の耐震化率100%を達成しました。

今後は施設の老朽化対策と快適な学習環境を確保するための設備機器の導入を積極的に推進して、教育環境の充実や防災拠点としての強化を図ります。

学校施設大規模改修事業

重点施策 : 生涯学習の充実とスポーツの振興



ピーター・フランクル氏（数学者・大道芸人）の講演

平成23年からスタートした市民大学講座は、健康、歴史、文学といった分野から、身近なテーマについての専門の講師による学びの場です。講座では、通常の5回コースに加えて、東京大学EMP（エグゼクティブ・マネジメント・プログラム）の講師陣による、日本最高レベルの知識と思考を提供する東京大学EMP特別講座や、各界の著名人を招いての特別講演会などを実施しています。

平成30年度は、13回の講座を実施し、延べ1289人が受講しました。

今後も市民の多様な学習ニーズに応え、市民が生涯学習を通じて充実した日々を送ることができるよう取り組んでいきます。

市民大学事業

重点施策 : 若年層を中心とした定住支援



とりで住み入る支援プランリーフレット

子育て世帯等の市内定住を促進し、あわせて魅力ある住環境の整備を図るため、平成28年度に創設した「とりで住み入る支援プラン」。

▼新築住宅の取得補助▼中古住宅の取得に伴う改修工事補助▼シニア層の持ち家活用による住み替え支援補助を実施しています。

平成28年4月から令和元年12月末までに329件の住宅取得補助の申請がありました。住宅リノベーション補助も同期間で46件の申請があり、市内定住化と中古住宅の性能向上・流通促進に効果을上げています。

定住化促進住宅補助事業

重点施策 : 行政運営の効率化



旧取手第一中学校跡地に開設した井野なないろ保育所・地域子育て支援センター

学校跡地等の活用計画を立案・策定し、有効な利活用を推進します。

旧取手第一中学校跡地に「井野なないろ保育所・地域子育て支援センター」を整備し、開所しました。

旧白山西小学校跡地は、民間企業の研修施設として利活用しています。

今後も、市民の皆さんの意見を取り入れながら、将来を見据えた利活用を進めます。

学校跡地等利活用推進事業

重点施策 : イメージアップ施策の推進

市制施行50周年記念事業



50周年を機に作られた「市民のうた」のプロモーションビデオ収録の様子

10月に、昭和45年の市制施行から50周年を迎えることから、市制施行50周年記念式典のほか、さまざまな事業や行事を行政のみならず、市民や市民団体と広く連携して行います。

ホテルの放流をはじめとする事業を市民協働で実施することで、将来の取手を担っていく当事者であるという意識を醸成します。

また、PR市勢要覧、市史追補版、市の魅力映像、原動機付自転車の「ご当地」ナンバープレート等を制作し、多くの人に施策や魅力について知ってもらう契機とします。

とりでアートギャラリー運営事業



とりでアートギャラリーで行われた新春コンサート（1月4日）

東京芸術大学、J.R東日本東京支社、アトレと市の4者は、平成29年5月に協定を締結しました。この協定による取り組みの一つとして、令和元年12月に、文化交流施設「たいけん美じゅつ場（VIVA）」が取手駅ビル内にオープンしました。その中には「とりでアートギャラリー」を開設。作品展示の場として提供して広く利用できます。

今後は4者がさらに連携して、「駅を中心とした取手地区の活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展のため」事業を展開していきます。

重点施策 : 安全安心対策の充実

防災ラジオ導入事業



防災無線が流れるとラジオが放送されます

安全安心な社会づくりを推進するため、屋内でも防災情報をより確実に入手できるように、防災ラジオの導入を進めます。ラジオは希望者をはじめ市内の学校施設、自主防災組織や消防団などに貸与を行い、災害発生時における情報伝達の充実に図ります。

防災無線が流れると自動的にラジオが点滅し、同じ内容が放送されます。直前の内容を聞き直す機能もあり、耳が不自由な方向けには、文字表示機能付きのラジオも用意されています。

多くの意見を反映



市長に答申書（審議結果）を手渡す大谷会長（中央）と椎名副会長（右）

「とりで未来創造プラン2020」の策定は、市長からの諮問（意見要請）を受け総合計画審議会が設置され、大学教授や市議会議員、市政協力員の代表、そのほかの公共的団体の代表などが審議を重ねました。

1月24日、審議結果が、市長に答申（回答）されました（写真）。

審議会会長の大谷基道氏（獨協大学教授）は、「市民のさまざまな意見を取り込み、SDGsを反映した先進的な計画です」と話し、副会長の椎名一夫氏（市政協力員連絡協議会会長）は「市制50周年を意識して作りました。自分事として考えてほしいです」と話していました。

そのほか市は、市民意見交換会などを実施して、幅広い意見を頂きました。



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エスディーゼーズ

## SDGs ってなに？

SDGs (SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS: 持続可能な開発目標) は、2015年9月の国連サミットで採択された、世界共通の目標です。2030年までに、国連に加盟している193の国・地域が、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、17のゴール(目標)と169のターゲット(具体的な目標)の達成を目指しています。

## ポイント



- ◆ 誰一人取り残さない
- ◆ 全ての人が行動する
- ◆ 未来のことを考える

## 身近でできることがあります

SDGsの達成には、国や企業、自治体だけではなく、皆さん一人一人の取り組みが大切です。普段の生活でも簡単にできることがたくさんあります。意識して行動してみましょう。

### マイバッグを使おう

買い物の際にマイバッグを使用することで、レジ袋などを削減しましょう。

マイバッグでお買い物中の方に聞きました！「手作りのバッグを愛用しています。楽しくお買い物できて、エコにもつながり、一石二鳥ですね」



### フードドライブ (食品ロスの削減)

江戸川学園取手中・高等学校調理同好会では、家庭で余っている食品を集め、フードバンクに寄付する活動を行っています。参加した生徒は「普段から食べ残しを減らしたり、リサイクルを心がけています。今後も活動を続けていきたいです」と語りました。

